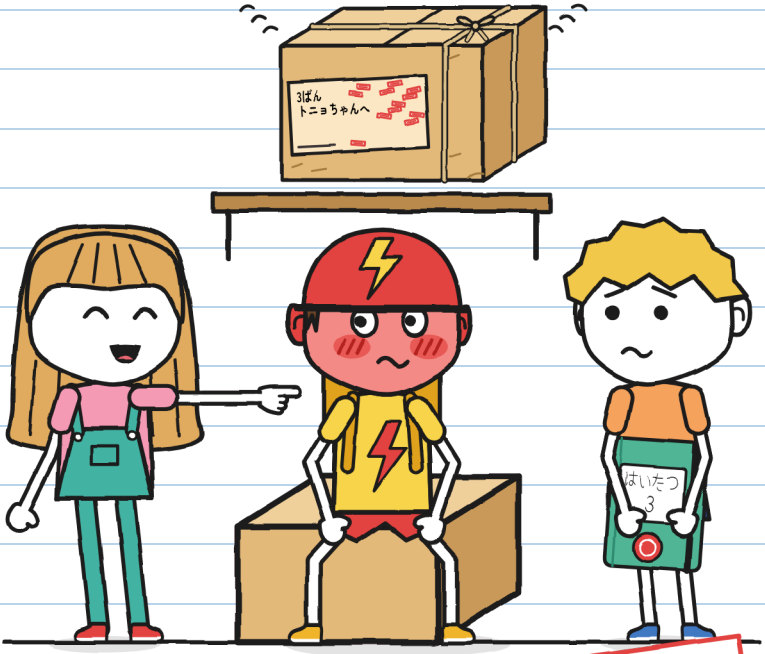
ありえない はいたつ・3

へんそう おねがい

LinguAula



(グニの ノート)

サイズ M
中級・9+

ありえない はいたつ・3
へんそう おねがい

文と絵：**LinguAula**

サイズ **M**・中級・9+

日本語版：**LinguAula**

初版：2026

© 2026 **LinguAula** · **info@linguaula.com**

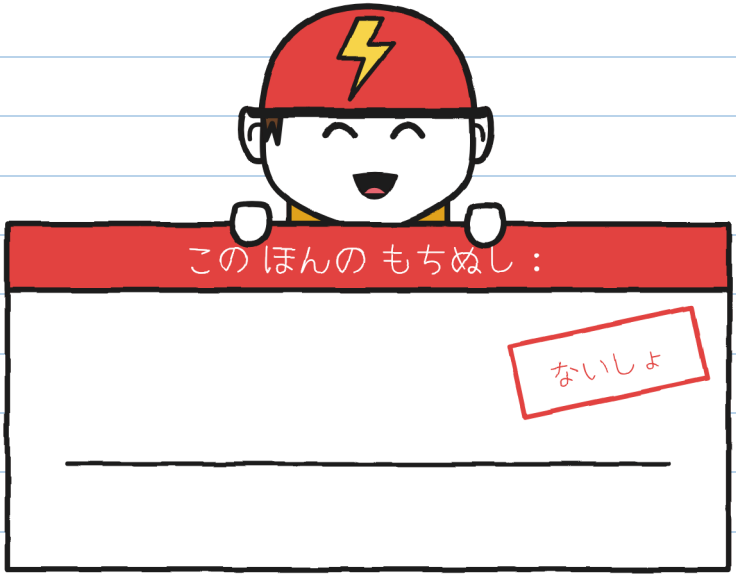
自由にコピーして、学校でも家でも使えます。

シリーズ第3作。前の2作：『このにもつは かみつく』『かみなり前に あけるな』

LinguAula

linguaula.comで しょうごとに れんしゅう

この本を書いているあいだ、ケガをした配達員はいない。まっ赤になった人は、いる。 —J.



そして さきに よむのは わたし。 —J.

見(み)つけたら、もどしてください。おねがいします。

おはなしの なかだけ

このはんこ(にもつ)は、おはなしの中(なか)だけで起(お)こることのしるし(ほんもの)。本物(じてんしゃ)の荷物は飛んでもどったりしない。本物(ほんもの)の自転車に乗るときは、76ページのとおりに。 —J.

だれが だれ？



グニ。どようびの はいたつやさん。だれも たのんで いない ものを かく。この ノートは グニの。



フリータ。みどりで かいて、「J.」と サインする。いつも たすけかたを しって いる。それが もんだい。



トニョ。じてんしゃで イナズマびんの はいたつを する。じっぷんで とどかなければ タダ。あかく なるのは ぶぶんごと。



マラさん。「ありえない はいたつ」の てんしゅ。まじょの ぼうしを かぶって いる。いうより ずっと おおくを しって いる。



ゾーイ。イナズマびんの 人。いちばん はやい。あだなを つける人。



ブルーノ。イナズマびんの 人。1かい パンクした。2ねん まえ。



3ばんの にもつ。うごかすと なる。ラベルには なまえが ひとつだけ。

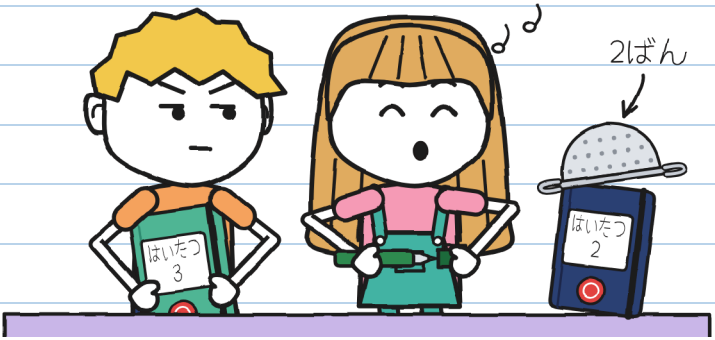


R.は、だれにも とどけられない にもつを おくるひと。その なまえを だれも いわない。

グニの
はいたつノート3

ないしょ。

「ないしょ」は、先に読むこと。だれにも言わない。 —J.



ノート2は、たった一つのあらしで使いきった。これは緑色で、店のはんこ入り。ぼくが最初に使うはずだったのに、使ったのはフリータだった。

助けるために先に使ったの。どういたしまして。 —J.

ぼくはたのんでいない。でも、フリータには関係ない。

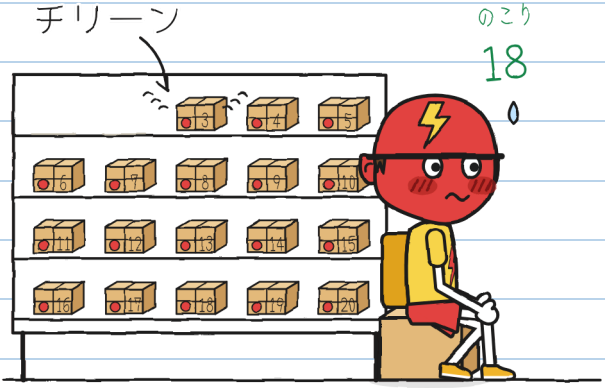
第1章

チリーン

マラさんの店には、だれにもとどけられなかった荷物のたながある。二十こあった。フリータとぼくは、ドラゴンのたまごと走るたねをとどけた。のこりは十八こ。

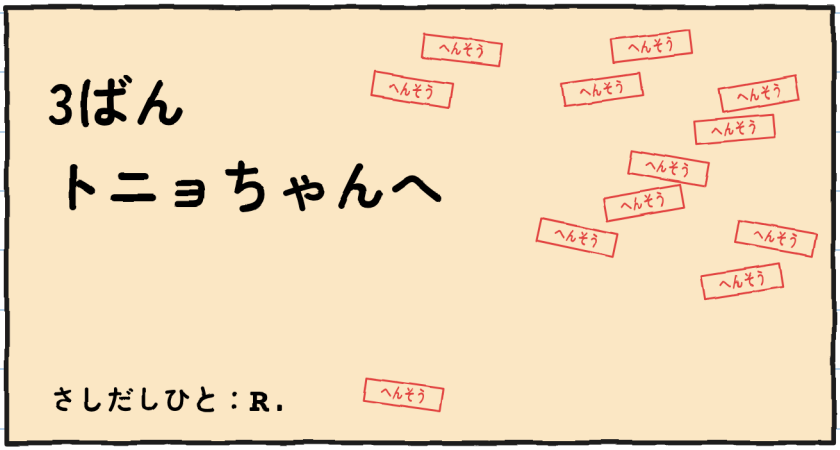
あらしの夜、もううちへ帰ろうとしていたとき、荷物の一つが鳴った。

チリーン。



3番だった。十分でとどかなければタダのイナズマ便で働くトニョが、ヘルメットと同じ色になった。

サインがないと、もどってきた荷物は夜明けにたなへ飛んでもどる。サインとして使えるのは、荷物を受けとる人のものだけ。ラベルに、きえないインクで書く。R.は差出人、つまり荷物をおくる人だ。



フリータはラベルを読みはじめた：
「トニョちゃ……」
フリータは口をとじた。フリータは、ことばのとちゅうでだまったりしない。トニョを見ると、赤くなりかけていた。

半分だけ読んだ。あとの半分は飲みこんだ。 —J.

いきなりまっ赤になる人もいる。トニョはちがう。トニョは部分ごとに赤くなる。ぼくは書きとめた。

トニョの あかメーター



「その荷物は、まてる」とトニョはものすごい早口で言った。「何年もまってるんだろ？　じゃあ、あと一日。十日でもいい。イナズマ便はいそがない」

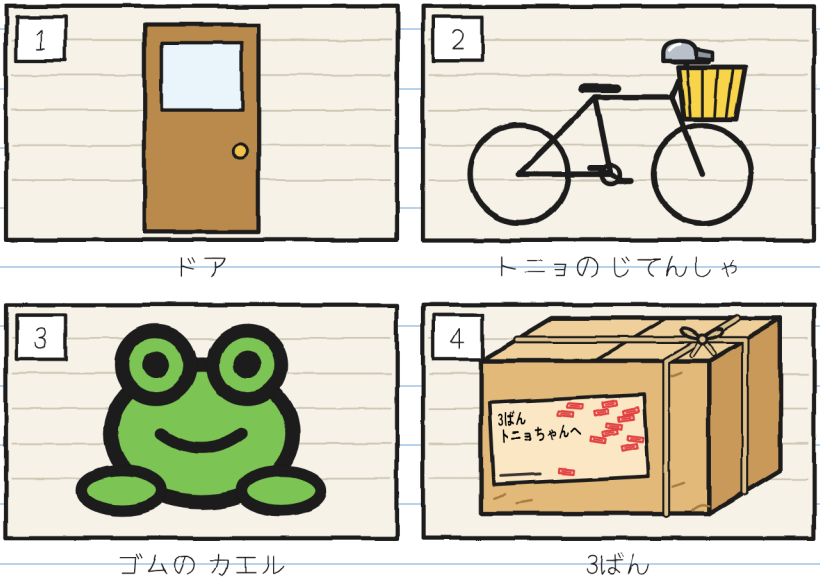
イナズマ便の人がそんなことを言うのを聞いたのは、はじめてだった。

その夜：4。赤で書きたいところだけど、持っているのは緑だけ。　—J.

「今夜は何も開けない」とマラさんは言った。「それに、たなには勝手にさわらない」
だれもさわらなかった。チリーンは、また鳴った。
チリーン。
「今の、ドアの音だよ！」とフリータは言った。

わからないことがあると、ぼくはリストを作る。

チリーンの ようぎしゃ



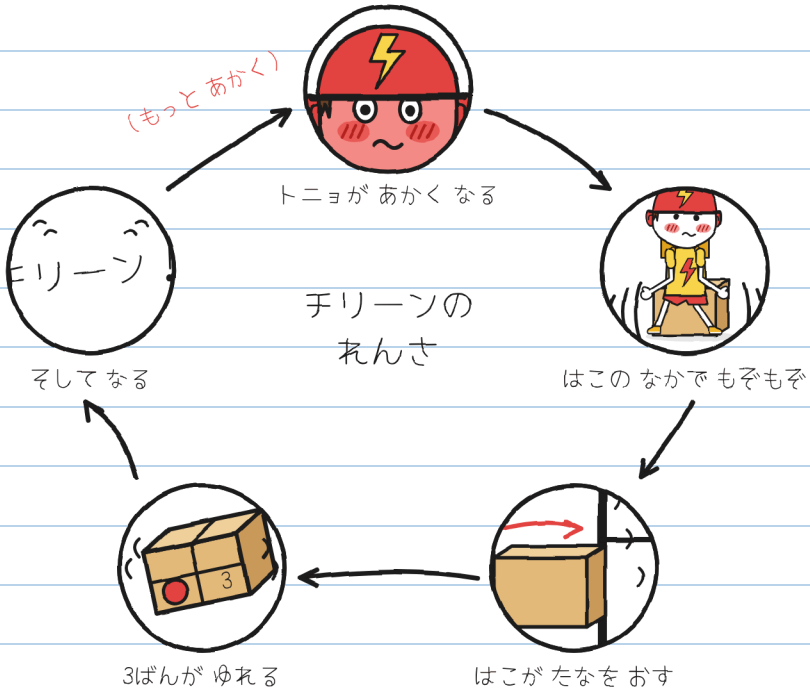
カエルは悪くない。わたし、知ってるから。 —J.

ぼくは歩道に出て、音をためした。もう雨はふっていない。
ドアを開けてしめた：ギィー。トニョの自転車のベルをならした：リンリン！　カエルをおした：キュッ。



中では、フリータが指をふって「ちがう」と言っていた。どの音も、同じじゃなかった。
ぼくは入った。トニョが箱にすわったまま、もぞもぞ動いた。
チリーン。

ぼくはしゃがんだ。トニョの箱が、たなの足にもたれかかっていた。



まほうじゃない。トニョだった。
3番を動かすと、中で何かが鳴る。

わたしと同じ。 —J.

トニョはじっとしていることに決めた。それがもったのは、これだけだ：

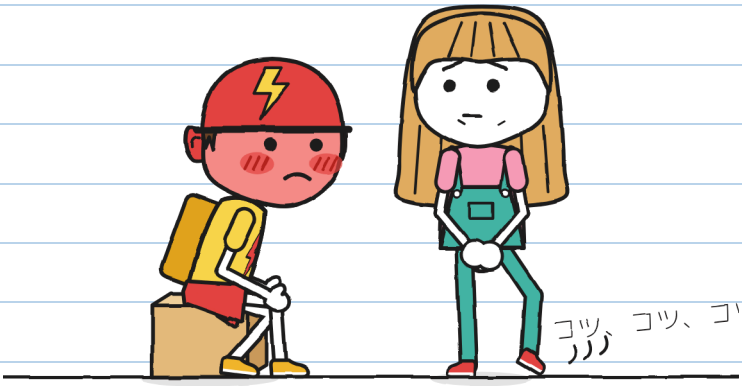


ただ聞いただけ。聞いただけで、たなはおせない。 —J.

この一言は、おした。

「ぼくのことだ」とトニョは、自分のスニーカーを見ながら言った。「小さいころの」
あまり小さい声だったので、カエルのほうがぼくよりよく聞こえたはずだ。

フリータは口を開けた。聞きたいことがたくさんあった。トニョはまだ自分のスニーカーを見ている。それを見て、フリータは口をとじた。



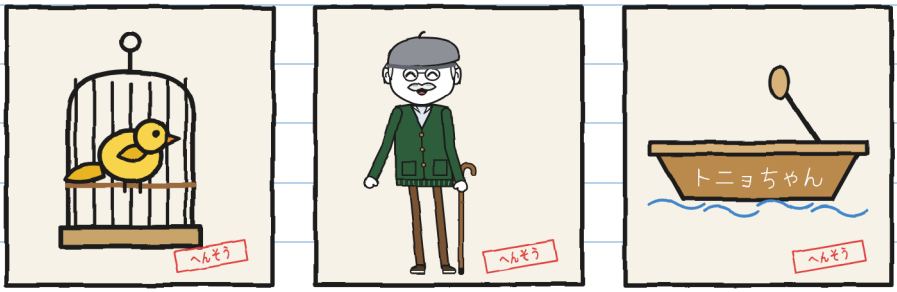
「もうきかない」とフリータは言った。
がまんするのは大変だった。足に出ていた。

聞かなかったことは九こ。ぜんぶ書きとめてある。 ーJ.

「どうして一度もとどけなかったの？」とぼくはマラさんに聞いた。

「十二回持っていったよ。ラベルを見てごらん。通りの名前も、番地も、名字もない。見つけたトニョちゃんは、ぜんぶ試した」

マラさんの トニョちゃんたち



1. カナリア。
（ラベルを ふんだ。ダメ。）

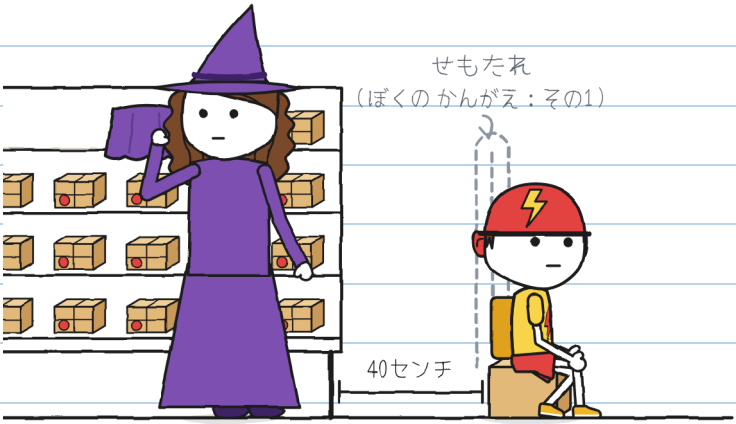
2. アントニオさん、71さい。
（「そうだと いいんだけどね」）

3. うんがの ボート。
（てが ない。）

「トニョは？」とフリータが聞いた。

「この前とどけようとしたときは、まだトニョを知らなかった」とマラさんは言って、トニョを見た。「それに、小さいころなんとよばれていたのか、だれも教えてくれなかった」

マラさんはカウンターの下からむらさき色のぬのを出して、3番にかけた。ねむるときのオウムのかごみたいに。
それから、トニョの箱をたなから40センチはなした。
「これでいい。いくら動いてもだいじょうぶ」



トニョは自転車で帰れた。ドアのところにある。10分で町の反対まで行ける。
トニョはまたすわった。
なぜかはわからない。でも書いておく。トニョの箱にはせもたれがないから、ぼくが一つかいた。

だれもあなたに、せもたれなんてたのんでいない。 —J.

店をしめるとき、トニョは最後までのこって、ヘルメットをとめていた。
「マラさん。あした、あの荷物のことで話しに来る。ほかの人に聞かれない所で」
「この二人は店の人だよ」
トニョはぼくたちを見た。
「この二人ならいい。でも、イナズマ便の人はだめだ」



チリーンの持ち主は、もうわかった。トニョだ。あとは、トニョが荷物をほしいかどうかだ。

どうすれば助けられるか、わたしにはもうわかっている。 —J.

それがぼくは心配なんだ。

ひとつの おはなし、むっつの サイズ

サイズは六つあって、3さいから16さいまで。ことばは20いじょう。**XXS**、**XS**、**S**、**M**、**L**はページも絵も同じ。**XL**はしょうせつ。ちがうのは話し方だけ。

サイズ XXS · PRE-A1
マラさんと トニョが わらう。あかい じてんしゃが みえる？

サイズ XS · A1
マラさんは わらいそうに なった。トニョも わらった。どようびから ずっと わらって いなかった。

サイズ S · A2
マラさんが ふっと おとを たてた。ほとんど わらい だった。トニョも わらった。土曜日から トニョが わらうのを 見て いなかった。

サイズ M · B1
マラさんが音をたてた。笑い声みたいだった。トニョも笑った。土曜日から、トニョが笑うのを見ていなかった。

サイズ L · B2
マラさんが、ほかの人だったら笑い声になるような音をたてた。トニョも笑った。土曜日から、トニョが笑うのを見ていなかった。

サイズ XL · B2-C1
イラスト小説 · 13+
CEFRのレベルは目安です。

じぶん　おな
それぞれ自分のサイズで。同じチリーン。 —J.

おうちの ひとと せんせいへ
linguaula.comで しょうごとに れんしゅう